



第32回 全日本大学ホッケー王座決定戦3日目

開催日時 6 月 24 日 (月) 会場 岐阜県グリーンスタジアム A 天候 晴れ

【全試合結果】

第1試合 9:30	立命館大学	1	$\begin{pmatrix} 1 - 0 \\ 0 - 2 \end{pmatrix}$	2	山梨学院大学
第2試合 11:20	東海学院大学	8	$\begin{pmatrix} 4 - 1 \\ 4 - 0 \end{pmatrix}$	1	駿河台大学
第3試合 13:10	天理大学	0	$\begin{pmatrix} 0 - 2 \\ 0 - 0 \end{pmatrix}$	2	朝日大学
第4試合 15:00	山梨学院大大学	3	$\begin{pmatrix} 1 - 2 \\ 2 - 2 \end{pmatrix}$	4	立命館大学

【各試合の結果・詳細】

第1試合

立命館大学 1 $\begin{pmatrix} 1 - 0 \\ 0 - 2 \end{pmatrix}$ 2 山梨学院大学

<得点>

立命館 : 18分 石川
山梨学院 : 56分 松瀬、66分 佐藤

<戦評>

立命館大学のセンターパスにより試合が開始。一進一退の攻防が続くなか、18分立命館#5一谷麻のリバースヒットに#9石川が合わせ先制点を挙げる。勢いに乗った立命館は試合のリズムを掴む。26分立命館はPCを取得。追加点のチャンスを得るも得点に繋がらない。一方、山梨学院大学は#1田中を中心に攻め込むが立命館の固い守りに阻まれ得点には繋がらない。前半1-0立命館リードで折り返す。
後半に入り、36分立命館はPCを取得。#13佐々木のシュートは山梨学院GK#16笹木の好セーブにより追加点にはならない。追いつきたい山梨学院は猛攻を仕掛け57分#7山田が左サイドからサークル内へ持ち込みリバースヒットを放ち#8松瀬が合わせ同点とする。さらに66分山梨学院#12佐藤がサークル内の混戦から抜け出しリバースヒットを豪快に右下に決め逆転する。試合はこのまま終了。2-1で山梨学院が決勝に駒を進めた。

テクニカルオフィサー	大橋 守	アンパイア	我妻 順子
リザーブ	木下 英貴		石橋 徹也
サジェスチョンアンパイア	加藤 直美 高橋 英行	ジャッジ	刈谷 和代

第2試合

東海学院大学 8 $\begin{pmatrix} 4 - 1 \\ 4 - 0 \end{pmatrix}$ 1 駿河台大学

<得点>

東海学院 : 10分 山口、25分 吉原、29分 山口、30分 清水、
49分 森田、58分 山口、63分 義浦、65分 高橋
駿河台 : 13分 小川

<戦評>

東海学院大学のセンターパスにより試合が開始。東海学院は7分にPCを取得。#18高橋のスィープに#15山口が合わせ、先制点を挙げる。対する駿河台大学は13分にPSを取得。#3粕谷がゴール中央の上に突き刺し同点に追いつく。追加点の欲しい東海学院は頻りにメンバー交代を繰り返し、主導権を握り続ける。25分東海学院PCを取得。#14吉原がヒットシュートを決める。さらに29分PCを取得し、#15山口がタッチシュートを決め3-1とする。30分#9清水がドリブルで仕掛けリバースヒットを決め、相手を突き放す。35分駿河台はPCを取得するが決めきれず、4-1で東海学院リードのまま前半戦を折り返す。
後半に入っても、東海学院のペースで試合は進む。49分東海学院#7一谷がゴール前のこぼれ球を押し込む。58分PCを取得。#15山口がタッチシュートで決め、6点目を決める。64分#4義浦がゴール前のこぼれ球を確実に決め7点目を挙げる。66分PCから#9清水がタッチシュートを決め、リードを広げる。試合はその後東海学院のペースで進み、8-1で圧勝。東海学院が決勝へ駒を進めた。

テクニカルオフィサー	西松 孝治	アンパイア	壽山 由樹
リザーブ	元宗 宏寿		山田 恵美
サジェスチョンアンパイア	中元 大輔 渡邊 道彦	ジャッジ	鹿野 育郎

第3試合

天理大学 0 $\begin{pmatrix} 0 - 2 \\ 0 - 0 \end{pmatrix}$ 2 朝日大学

<得点>

天理 :
朝日 : 20分 服部、27分 竹中

<戦評>

朝日大学のセンターパスにより試合が開始。立ち上がり、勢いのある朝日が天理陣内に攻め込む。11分、PCを取得するも得点には至らない。その後も朝日優勢に試合が進むものの、天理の粘り強い守備に決定的なチャンスを得られず均衡状態が続く。試合が動いたのは20分、朝日がPCを取得。GKの弾いたボールに#10服部が反応し、冷静にプッシュシュートで押し込み先制点を挙げる。天理も徐々にペースを取り戻し攻撃を組み立てPCを取得するも、朝日の堅守により得点できない。28分、朝日はPSを取得。天理は判定に対しチャレンジ権を行使するも判定は変わらず、#9竹中がGKの逆を突くシュートを決め、2-0で前半を折り返す。
後半に入り、前半を優勢に進めた朝日に代わり、天理が勢いを取り戻しゲームを支配する。天理の怒涛の攻撃が続くが、ここでも朝日GK#8坂井田を中心とした堅い守備に阻まれ得点には至らない。その後は一進一退激しい攻防が繰り広げられるが、両チーム決定打に欠け得点は動かない。試合時間が残り僅かとなった66分、天理はGKとFWを交代させ果敢に攻め入るが得点できず2-0で試合が終了。朝日が勝利を収め、明日の決勝戦に駒を進めた。

テクニカルオフィサー	刈谷 和代	アンパイア	木下 英貴
リザーブ	山田 恵美		高橋 英行
サジェスチョンアンパイア	元宗 宏寿 我妻 順子	ジャッジ	西松 孝治

第4試合

山梨学院大大学 3 $\begin{pmatrix} 1 - 2 \\ 2 - 2 \end{pmatrix}$ 4 立命館大学

<得点>

山梨学院 : 31分 安部、44分 松本、68分 村田
立命館 : 6分 大橋、26分 森、57分 大橋、62分 藤原

<戦評>

立命館大学のセンターパスにより前半戦が開始。5分立命館はPCを取得。パスを繋ぎ、#9大橋がプッシュシュートを右下に決め、先制点を得る。対する山梨学院大学は、DFから確実にボールを回し、攻撃を仕掛けるも立命館の堅い守りに阻まれ、得点に繋げることができない。27分、立命館は相手DFのミスから#11森がダイレクトシュートで決め、2点目を挙げる。追いつきたい山梨学院は29分、PCを取得。#6安部がフリックシュートを左下に決め、点差を縮める。その後は、一進一退の攻防が続く。2-1で立命館リードで前半戦を折り返す。
後半に入り、44分、山梨学院はPCを取得。#14松本が左下に豪快なドラックシュートを決め、同点に追いつく。立命館は、57分サークル内で#9大橋がパスを受け、リバーシットで右下に決め、再びリードする。さらに、63分PCを取得。#21高橋のヒットに#5藤原が合わせ、リードを広げる。このまま試合終了と思われたが68分、山梨学院#3長岡がドリブルでサークル内に入る。#7村田がパスを受けプッシュシュートを放ち、点差を縮める。そのまま試合が終了し、4-3で立命館が決勝に駒を進めた。

テクニカルオフィサー	鹿野 育郎	アンパイア	中元 大輔
リザーブ	木下 英貴		渡邊 道彦
サジェスチョンアンパイア	壽山 由樹 石橋 徹也	ジャッジ	大橋 守